



子ども会活動 振興策の 方向性

～子ども会の今と未来～

- ① 策定の趣旨
- ② 本市の子ども会活動の現状と主な課題
- ③ 子ども会活動の振興に向けた基本理念及び基本方針
- ④ 基本方針に基づく子ども会活動振興策の方向性
- ⑤ 今後について



\\ マンガで早わかり //

子ども会の意義と抱えている課題
子ども会がめざす新しい姿

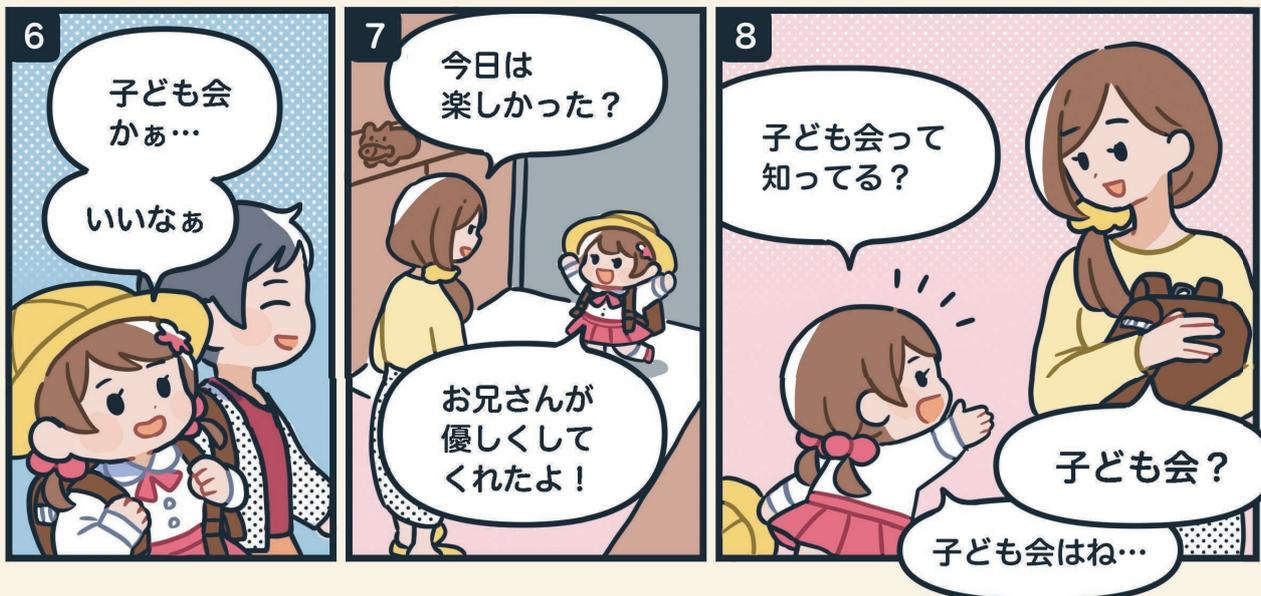
\\ Report //

子ども会の取り組みレポート





子ども会の意義と抱えている課題





今、子ども会は変わろうとしています

子ども会活動振興策の方向性

1 策定の趣旨

保護者を始めとする子ども会の育成者や指導者、地域のさまざまな方に支えられている子ども会活動は、子どもにとって、身近な地域で異年齢の子どもの交流や幅広い体験活動、地域の大人との関わりを通じて、継続的な心身両面の成長・発達につながる非常に意義のある取り組みです。

また、子どもにとっては、学校や家庭以外で過ごす居場所も重要であり、子ども会が身近な地域における子どもの居場所となることで、子どもたちが地域に関心を寄せるきっかけになるものと考えられます。

しかしながら、子ども会については、全国的に会員数及び団体数が減少しているなか、本市においても減少傾向が継続しており、特に近年は、その傾向が顕著になっているため、多くの地域の子どもが子ども会活動に参加する機会を失う状況になっています。

減少の主な要因としては、運営に携わる保護者の負担の大きさなどがあると考えられるため、今般、保護者負担の軽減を重点とした今後の子ども会活動の振興に向けた施策の方向性を策定し、方向性に基づき各種支援策を着実に進めることで、子ども会活動が子どもや保護者にとって魅力的なものとなるよう、活動の活性化を図るものです。

2 本市の子ども会活動の現状と主な課題

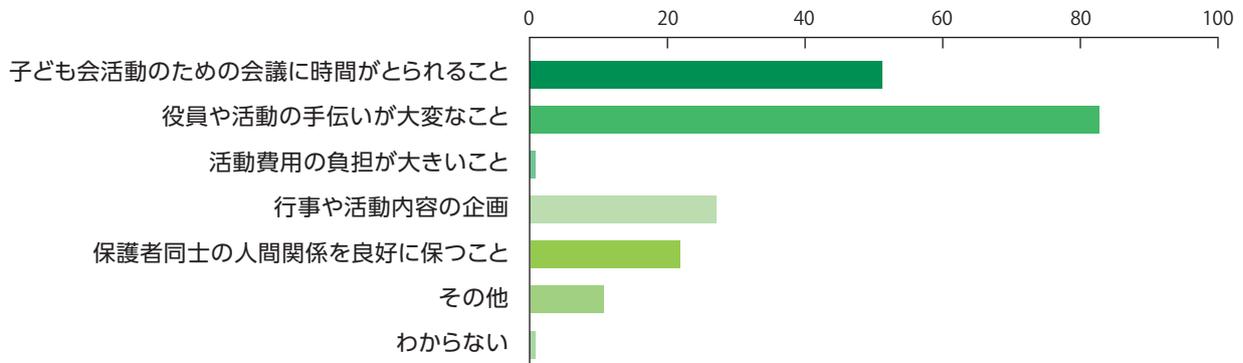
(1) 保護者負担の軽減

■ 現 状

- 保護者を対象としたアンケート調査(注1)では、子ども会活動を負担に感じる(「かなり負担に感じる(感じた)」及び「少し負担に感じる(感じた)」の合計)と回答した方が全体の6割を占めています。
- 同調査では負担に感じる内容として、「役員や活動の手伝いが大変なこと(82.4%)」や「子ども会活動のための会議に時間がとられること(51.6%)」が上位を占めています [右グラフ参照](#)。

(注1) 令和6年5月に実施した市内の小学1年生～中学1年生の子どもの保護者を対象としたアンケート調査の意見

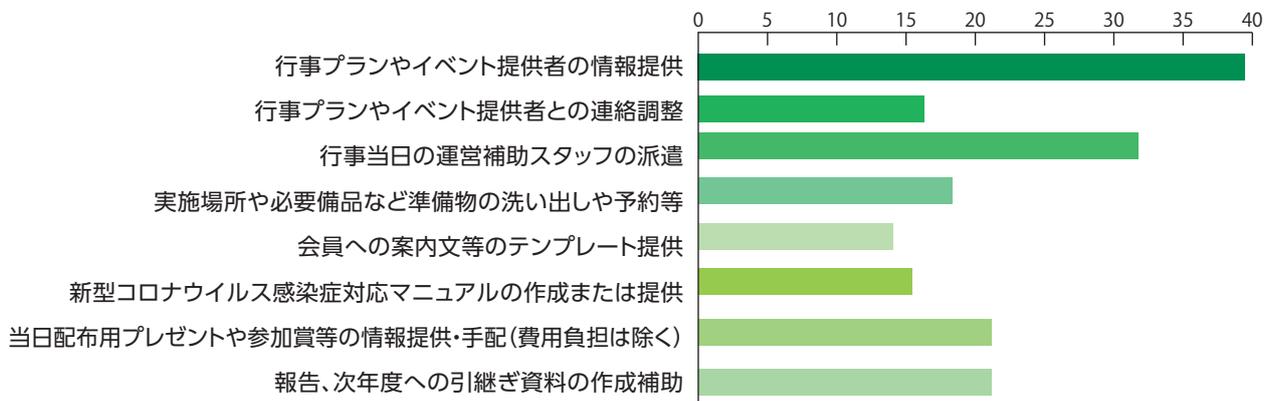
負担に感じる内容



- 子ども会役員を対象としたアンケート調査(注2)では、地域子ども会の行事のサポートとしてあったらよいものとしては、「行事プランやイベント提供者の情報提供(39.2%)」や「行事当日の運営補助スタッフの派遣(31.5%)」が上位を占めています [下グラフ参照](#)。
- 同調査では地域子ども会の役員同士の連絡や情報共有については、ICTツールを活用して効率化を図ることで、負担軽減につながるとの意見がありました。

(注2)令和4年7月に実施した学区子ども会育成者組織(以下、「学区子連」という。)代表者を対象としたアンケート調査の意見

地域子ども会の行事のサポートとしてあったらよいもの(上位回答抜粋)



主な課題

- 近年の子ども会活動については、運営に携わる保護者の多くが子ども会活動を負担に感じており、保護者負担の大きさが会員数や団体数の減少につながっているため、早急に負担軽減につながる取り組みが必要です。



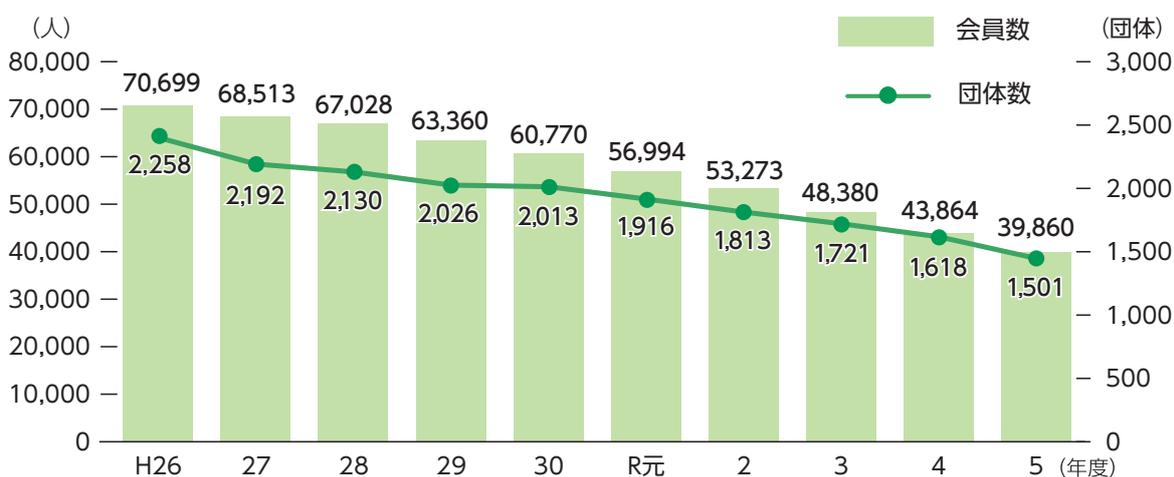
2 本市の子ども会活動の現状と主な課題

(2) 参加機会の充実

現状

- 主に町内会・自治会単位で組織される地域子ども会の団体数(注)は、平成26年度から令和5年度までの10年間で、2,258団体から1,501団体へ減少しています [下グラフ参照](#)。
- 学区単位で組織される学区子ども育成者組織の団体数(注)についても、平成26年度から令和5年度までの10年間で、214団体から137団体へ減少しています。

地域子ども会の団体数および会員数の推移



(注)地域子ども会の団体数および学区子連の団体数は、助成金の交付決定団体数

主な課題

- 近年の子ども会の団体数の減少を受け、子ども会活動に参加したくても参加できない地域があるため、どの地域でも参加の機会が確保できるよう支援する必要があります。

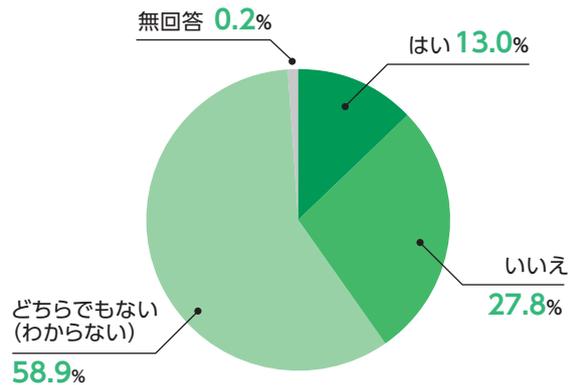


(3)活動の魅力向上と効果的なPRの実施

■ 現 状

- 子どもを対象としたアンケート調査(注1)では、子ども会に加入している、または加入していたことがある子どもの7割以上が「楽しい」または「まあまあ楽しい」と回答しています。
- 同調査では子ども会に加入していない(加入していたことはない)子どもの8割以上が「加入したくない」または「どちらでもない(わからない)」と回答しており **下グラフ参照**、加入したくない理由として、「子ども会の活動は、楽しそうだと思わない(28.1%)」や「子ども会がどういう活動をしているかわからない(26.6%)」という意見がありました。
- 子ども主体の子ども会行事の参加者へのアンケート調査(注2)では、子ども全員から、「行事を通じて子ども会活動を好きになった」や「今後、友だちやきょうだいに子ども会に入ることを勧めたい」と回答がありました。
- 同調査では保護者からも「子どもスタッフが大きな声でいきいきと対応していた。」などの意見がありました。

子ども会に加入したいと思うか
[対象者:子ども会に加入していない(加入していたことはない)子ども]



(注1)令和6年5月に実施した市内の小学1年生～中学1年生の子どもを対象としたアンケート調査の意見

(注2)令和5年8月に実施した子どもが主体となって企画運営を行う子ども会行事の参加者を対象としたアンケート調査の意見

■ 主な課題

- 近年、子どもの休日の過ごし方が多様化する中で、子どもが進んで参加したくなるよう、子ども会ならではの活動の魅力を高める必要があります。
- また、子ども会の活動の魅力を幅広く伝えるための、効果的なPRに取り組む必要があります。



子ども会がめざす **新しい姿**





3 子ども会活動の振興に向けた基本理念及び基本方針

(1) 基本理念

子どもが遊び、学び、交流し、体験する機会は、子どもが生まれながらにして持つ権利であり、子どもの成長にとって非常に大切です。

このような機会を地域で提供している子ども会活動を活性化することで、子どもたちが身近な地域で異年齢の子どもや大人と交わりながら、のびのびと豊かに育つことをめざします。

また、子ども会活動が保護者にとっても、身近な地域で子どもの成長を見守りながら交流を深めることができる魅力的なものとなることをめざします。

(2) 基本方針

保護者負担の軽減

- 運営に携わる保護者負担の大きさが子ども会の団体数や会員数の減少につながっていることを踏まえ、ICTツールの活用を始めとした運営の効率化を進めることで早急に負担軽減を図ります。
- 保護者を始めとする子ども会関係者から運営の効率化や子ども会活動の活性化に向けたアイデア・実践例等を募り、発信する仕組みを作ることで、開かれた子ども会活動をめざします。
- 子どもの健やかな育ちを社会全体で支援するため、市や町内会・自治会等の地域団体とともに、学生・NPO法人など、多様な支え手が幅広く関わる子ども会活動をめざします。

参加機会の充実

- 子ども会の新設・再開につながる取り組みや子ども会のない地域における参加の仕組みを設けます。

活動の魅力向上と効果的なPRの実施

- 子どもたち自身が企画運営に関わる「子どもの手による子ども会活動」の促進などを通じ、子ども会活動の魅力向上を図ります。
- 子ども会活動の魅力が子どもや保護者を始め、幅広く市民に届くよう、子ども会活動のPRを強化します。

4 基本方針に基づく子ども会活動振興策の方向性

(1) 保護者負担の軽減

● 運営の効率化

ICTツールの活用促進

- 講習会や専門家派遣によるサポートなどを通じて、ウェブ会議システムやチャットツールなどのコミュニケーションツールの活用を促進し、会議や行事の準備など、子ども会運営の効率化が進むように支援していきます。

子ども会の運営事務マニュアルや相談対応事例集の作成・配信

- 子ども会役員の不安や負担を減らすために、ICTの活用も含めた子ども会運営のマニュアルや相談事例集を作成し、動画配信などを活用して提供します。

子ども会運営情報の集約・発信ができるデジタルプラットフォームの整備

- 保護者を始めとする子ども会の関係者から、運営の効率化や子ども会活動を盛り上げるためのアイデア、実践例などをウェブサイト上に集積し、情報を共有するデジタルプラットフォームを整備することで、活動事例の共有を進めるとともに、寄せられた意見等について、市の今後の取り組みに反映させていきます。

子ども会運営助成金の申請手続きのオンライン化

- 市の助成金の申請手続きを簡単にするとともに、過去の申請内容も確認しながら作成できるように、クラウドサービスを使って、オンラインで申請できるようにします。



区子連等の運営の効率化に向けた支援

- 子ども会からの相談対応やリーダー養成などを実施している区子ども会育成者組織や学区子ども会育成者組織の負担軽減をはかるため、会議の開催方法の見直しなど、運営を効率化する必要があることを子ども会関係者に伝えるとともに、会議のファシリテーターなどの外部の専門家による相談支援を行いながら、効率化を促進します。

4 基本方針に基づく子ども会活動振興策の方向性

多様な支え手の確保

子ども会ボランティアサークルに対する支援の充実

- 子ども会の行事を支えるために活動している、子ども会ボランティアサークルは、会員数が減少したり、コロナ禍の影響で活動の機会が減ったりするなど、以前と同じような活動を続けることが難しくなっています。
- ボランティアサークルの意見も聞きながら、ボランティア会員の募集や研修、交流会の開催など、活動の活性化につながる支援策を検討していきます。

子ども会活動アシストバンク事業の拡充による負担軽減の強化

- 子ども会活動アシストバンク事業では、行事当日の運営補助者の派遣を始め、行事の企画、準備段階からの相談支援、ミニゲーム・活動事例の発信など、子ども会運営に関して、幅広く負担軽減につながる事業を実施しています。
- 負担軽減策の強化を図るため、発信情報を充実するとともに、現在対象としている4区から、実施区の拡大を進めていきます。

地域団体との連携・交流事例の発信

- 町内会や自治会などの地域団体と子ども会と一緒に活動することで、活発に活動している子ども会の事例を紹介していきます。

子ども会と学生・NPO法人等との連携に向けた仕組みづくりの検討

- 多様な支え手の協力を得た運営につながるように、学生やNPO法人などの意見を直接聞きながら、子ども会が望む支援内容と提供できる支援内容をつなげる仕組みを検討していきます。



(2) 参加機会の充実

地域の特性に応じた参加機会の充実

地域子ども会の新設等につながる支援

- 子ども会活動が行われていない地域の子どもの参加機会を確保するため、休止していた子ども会の統合による再開事例や学区単位での新設事例など、地域の特性に応じた取り組みを紹介するとともに、子ども会の新設等を促進するため、設立に必要な手続きの助言や地域への説明をサポートする仕組みを検討していきます。

区子連等における地域の すべての子どもを対象とした行事の促進

- 子ども会に加入していない子どもや子ども会がない地域の子どものも、子ども会活動を体験できるよう、区子ども会育成者組織や学区子ども会育成者組織で、地域の子どもたち全員を対象にしたイベントを実施するための支援策を検討していきます。

新たな子ども会活動の検討

- 子ども会活動が行われていない地域が増加している状況を踏まえ、従来の考えとは異なった、保護者以外の支え手に関わる新たな形で、子ども主体の子ども会活動を区などの大きな単位で実施します。

Report

子ども会の取り組みレポート



「できる人が、できる時に、できることを」。名古屋市名東区の猪子石学区では、子ども会をはじめとする地域活動の在り方を見直し、新しい形の運営方法を実践。無理なく続けられる仕組みが広がっています。

できることから始める地域の輪

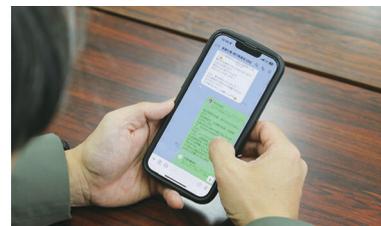
子ども会の運営では、他の地域活動への協力も求められ、保護者の負担が大きくなりがちです。猪子石学区では、ここ数年、この課題に向き合い、子ども会役員に関連行事への協力を挙手制に変更しています。

2024年の夏祭りでは、保護者有志による実行委員会が中心となり、地域企業との協働で会場設営を行いました。子ども会や関連団体の出店も強制ではなく、やぐらでの踊り手も自主参加。不足する人手は地元の学生や有償スタッフで補い、無理のない運営を実現しています。

さらに、SNSを活用した連絡手段の効率化も進め、子ども会により参加しやすい環境を整えています。子ども会活動を通じて、自然な形で協力し合える関係が、新しい地域の絆を育んでいます。



新たな体制で実施された夏祭りの様子



SNSを活用して連絡をスムーズに

4 基本方針に基づく子ども会活動振興策の方向性

(3)活動の魅力向上と効果的なPRの実施

活動の魅力向上

子どもが主体となって企画・運営する子ども会活動の推進

- 現在モデル事業として実施している、子ども自身が子ども会の行事を企画・運営する取り組みについては、子どもや保護者の満足度が非常に高い。
- この取り組みをさらに推進するため、保護者以外の支え手が関わる新たな形で、子ども主体の子ども会活動を区などの大きな単位で実施するとともに、そのノウハウも踏まえた、研修会の開催やファシリテーターの派遣などにより、子ども主体の取り組みを地域子ども会などにも、広げていきます。

子ども会活動アシストバンク事業の拡充による魅力向上

- 現在4区を対象としている子ども会活動アシストバンク事業では、多様なイベント企画を提供しており、子ども会ごとの異なるニーズに対応することで、活動の魅力向上につながっているため、企画内容を充実するとともに、実施区の拡大を進めることで、子ども会行事の魅力向上につなげていきます。

効果的なPRの実施

参加者による魅力発信の支援

- 子ども会活動に参加するきっかけとしては、参加経験のある子どもや保護者からの口コミが大きな影響を与えています。参加経験のない子どもや保護者にも、子ども会活動の魅力が伝わるように、SNSツールの活用方法のサポートなど、参加者による魅力発信の支援を検討します。

多様な手段による情報発信の強化

- 子ども会の支え手を広げ、活性化を図るためには、幅広く、市民向けに活動の重要性や活動内容を届ける必要があります。
- 広報誌や動画配信など、さまざまな方法で情報を発信し、市民の方々に子ども会の意義を広く伝える取り組みを進めます。

子ども会の取り組みレポート



名古屋市瑞穂区の御劔学区子ども会では、クリスマス会などの行事を子どもたちが主体となって作り上げています。地域の方々や大学生が支援する新しい形の子ども会が育っています。

みんなで育てる楽しい居場所

御劔学区子ども会では、子どもたちが主体的に企画や運営に関わることを大切にしています。クリスマス会の準備では、子どもたちが出し物ごとにグループに分かれ、目標や進行、準備品を自分たちで決めていきます。取材当日も、みんなで意見を出し合いながら、楽しそうに準備を進めていました。

子ども会を支えるのは保護者だけではありません。地域の方々や、名古屋市立大学の学生も協力。子どもたちを温かく見守りながら、活動をサポートしています。また、中学生がリーダーとして活躍する姿は、小学生の憧れとなり、「自分たちで作る」という意識が、新しい子ども会の伝統を育んでいます。異なる学年の子どもたちが互いに刺激し合い、成長していく—そんな温かな交流の場が、ここにはありました。



全員が主役になれる子ども会



困った時だけ大人がサポート

5 今後について

子ども会の振興に向けては、令和7年度から11年度を計画期間とする予定の「次期子どもに関する総合計画」において、加入率の増加、保護者負担の軽減および参加者満足度の向上に関する具体的な目標を定めます。

また、本方向性に基づき実施する新たな支援策については、子どもや保護者に対するアンケートなどを実施することで、定期的に目標達成に向けた進捗状況の確認を行いながら、有識者を含めた施策効果の検証を実施し、必要な改善策を講じていきます。

子ども会活動は、子どもの豊かな育ちに非常に大切な取り組みであるため、今後より一層、関係機関とも連携しながら、着実に支援策を進めていくことで、活動の活性化を図ります。



方向性の全体版は
こちらから





名古屋市 子ども青少年局
子ども未来企画部青少年家庭課

Tel:052-972-2521